

(3) 高等部

ア 高等部教育目標

生徒の安心・安全な環境を作り、職業生活や社会生活に必要な力を身に付けるとともに、積極的に社会参加しようとする生徒を育成する。

イ 高等部の教育

＜わたしたちの願い及び教育課程編成の基本的な考え方＞

生徒一人一人の特性等を考慮した教育を行い、「生きる力」を身に付け、自立や社会参加を目指すことは、本校高等部の目標にも記されているところであり、「わたしたち高等部職員の願い」である。高等部は、学校生活から社会生活への移行のときを担う場として、その果たす役割は大きいと考える。つまり、これまでに身に付けてきた力を、生徒一人一人が実際の社会生活で十分生かせるようにし、かつ職業生活に必要な力を身に付け、豊かな生活、持続可能な社会の実現に向け、主体的に判断・行動できるようにしていくことが必要であると考えている。そこで、本校高等部では、青年期にふさわしい学校生活を目指し、次の視点を柱として教育課程を編成していくこととした。

(7) 職業生活や社会生活に必要な力を身に付ける生徒を育成するために

生徒たちは、卒業後、進学や就職をしたり施設等を利用したりしながら地域で暮らし、社会生活を送ることになる。高等部生活を学校生活から社会生活への移行のときと考えると、生徒たちにとって今の学校生活を一つの社会生活とも位置付け、卒業後の職業生活や社会生活に結び付けるために「ステキな社会人」をキーワードとして、職業生活や社会生活に必要な力を实际的に身に付けられるようにしていきたい。具体的には、職業生活や社会生活を送る上で必要な基礎学力を高めながら、望ましい作業態度や生活態度、人間関係の育成をねらいとして

- ・ 身だしなみや礼儀を大切にする習慣の育成
- ・ 自分の役割を意識し成し遂げる責任感の育成
- ・ 働くことに興味をもち、継続して作業のできる体力と集中力の育成
- ・ 社会や職場の決まりを守り、相手を思いやり、協力し合って生活する態度の育成
- ・ 余暇の充実に向けての取組
- ・ 情報活用能力の育成と情報モラルの理解に関する取組
- ・ 持続可能な社会実現の担い手の一人であるという自覚をもって行動する態度の育成

を重点事項として定め、より現実的な場の設定による指導の充実を図ることとする。また、職業生活や社会生活に結び付く現実的、実際的な内容や単元の設定とともに、主体的な判断、行動を促す指導の工夫をすることとした。

(4) 積極的に社会参加しようとする生徒を育成するために

高等部においては、卒業後のより豊かな生活を見据え、社会参加しようとする生徒を育てることに重点を置く。そのためには、学校生活全体を通して行う日常生活の指導や各教科等、指導の形態ごとの学習についても充実を図っていくことはもとより、作業学習、LHR等を通じた職業教育や進路指導も充実させていくことが大切である。特に高等部では、生徒が卒業後社会人として生活していく状況を踏まえ、生徒が身に付けた確かな学力と働く力（生活する力）を発揮する機会として地域社会における体験的な学習の充実を図る。

ウ 具体的取組内容

	取組の主眼	具体的な取組内容・方法等
健康・安全	・心身の健康の保持増進	・健康な生活を営むための家庭や学園との連携（健康観察の徹底、手洗いうがいの励行、望ましい食習慣や食事マナーの指導、心の健康相談の活用）
	・健康・安全に関する意識の向上	・健康管理や危険回避など事故防止のための継続的な指導（生活単元学習、日常生活の指導、総合的な探求の時間など、家庭や学園との連携） ・安全で清潔な学習環境の整備及び保持（安全点検の徹底、机や椅子の調整、教室内外の整理整頓、衛生面の配慮）
	・身体を動かす楽しさや喜びの深まり	・生涯にわたって運動や余暇に親しむために、体育や体力づくり、同好会の指導・活動内容の充実
	・命の大切さを学ぶ学習の推進	・性に関する指導の充実、薬物・たばこなどの危険性の指導など
日常生活	・基本的な生活習慣に関する能力・態度の育成	・挨拶、返事、「です」、「ます」など場に応じた言葉遣いの指導の徹底（語先後礼の徹底、職員間での共通理解） ・時と場に応じた服装と身だしなみの指導の徹底（実態に応じた指導の充実、生徒心得の活用） ・教師による社会人を意識したモデルの提示（呼名、身だしなみ、時間厳守など）
人との関わり	・特性等に即したコミュニケーション能力の育成	・相手の思いを感じ取り、自分の思いを伝えるためのコミュニケーション手段を確立する学習活動の充実（写真、絵、身振り、言葉等による理解及び表出の指導、ICT機器の活用）
	・他者との関わりを深める集団活動の充実	・相手を思いやる気持ちと感謝の気持ちを大切にできる心の育成を図る集団活動の取組（生徒会活動の活性化・道徳教育の推進、SST等の活用） ・交流及び共同学習、集団活動の推進、及び各支援教室との授業や特別活動を通じた連携、交流の工夫（事前・事後学習の充実、ICT機器の活用等）
	・自己理解・他者理解を深める学習活動の工夫	・相手に自分の思いが伝わった喜びを実感できる学習活動の工夫（言語活動の拡充）
地域・社会生活	・社会生活や地域生活に必要な事柄の修得と実践する力の育成	・職場見学や産業現場等における実習を通じた計画的、段階的な職業教育の推進 ・生活に結び付く実践的・体験的な学習の場の設定（国語、数学、生活単元学習、日常生活の指導、自立活動など） ・卒業後の生活を見据えた家庭、学園、関係諸機関との連携及び計画的な進路指導の徹底（進路相談の充実、産業現場等における実習や職場見学による進路選択の充実、個別の教育支援計画、個別の移行支援計画の活用）
	・責任ある社会人としての態度の育成	・自分や相手の立場を理解し、ルールを守り、協力・協同して取り組む活動、及び持続可能な社会実現の担い手の一人であるという自覚に結び付く、実践的・体験的な学習の場の設定（生活単元学習、日常生活の指導、作業学習、LHR、情報モラル学習） ・働くことの意義や喜び、楽しさや厳しさを学び、充実感や達成感を育てる指導の徹底（作業学習の展開の工夫、実習の事前・事後学習の充実）
	・よりよい生き方を目指して自ら行動しようとする力の育成	・趣味や特技を生かし、充実した生活への支援（余暇の過ごし方、生活単元学習、ホームルーム活動、昼休みの充実、同好会、各種コンクールへの応募、資格取得の推進など） ・自己実現へ向けたガイダンス機能の充実（教育相談の充実、計画的な進路指導、職業ガイダンス、積極的な生徒指導）、自己選択、自己決定する機会の設定 ・卒業後の進路を見通して、キャリア教育の視点から生活の目標に向かって取り組める手立ての設定（生活単元学習、進路学習、産業現場等における実習など）